

市有建築物の現状、保全・管理のポイント、公共建築物に係る情報などをお知らせします。

たてもの保全活用通信

発行日：平成27年7月27日
発行者：建築課施設計画係、行政管理課施設活用係
編集：細谷、勝俣

昭和と平成 市有建築物のあゆみ

今後、時代の変化や建物の老朽化により、建替えやリニューアルが必要となる施設が増えてくるのが予想されます。そこで今回は、本市がこれまでどのような施設の整備を進めてきたのかを振り返ります。



保全コラム 建物の事故件数 未然に防ぐ

建物の劣化や不備などが、思いがけない事故の発生原因となることがあります。

平成25年建物における死亡事故件数

日常災害	住宅	建築	小計
中毒	76	10	86
墜落	706	242	948
転落	475	105	580
転倒	1,464	690	2,154
落下物・衝突等	33	8	41
感電	0	1	1
溺水	5,156	360	5,516
火傷	209	3	212
計			9,538

国総研建物事故予防ナレッジベースより

公共施設での事故例

国総研では、建物内における事故の原因と留意点について実際の写真や図を用いて分かりやすく事象ごとに紹介し、事故を未然に防ぐために注意喚起を

行っています。これにより、誰でも日常的に点検すべきポイントを確認することができます。

国総研の事故事例紹介

事故例① 体育館利用者6名

体育館の高さ9メートルの天井からコンクリート片が落下。下には利用者6名がいたが、けがはなかった。

原因 3年ごとに目視で確認していたが、経年劣化によりコンクリートの剥離が発生した。

事故例② 20代男性

児童館の階段でつまずき転倒。原因 階段の滑り止めが劣化によりめくれていた。

事故例③ 70代女性

市の施設を訪れた際、風で閉まった扉に手を挟まれ、切り傷を負った。

原因 ドアクローザーのばねが破損しており、全くと利かなくなっていた。

市有施設の劣化が進んでいる中、このような事故はどの施設でも発生する可能性があります。事故を未然に防ぐためには、日常的な点検や事故事例の把握に努めるなど、日々からアンテナを高く持つことが求められます。

ご紹介した事故事例や対策については、国総研の建物事故予防ナレッジベースからご覧いただけます。

参考引用 国総研ナレッジベース

